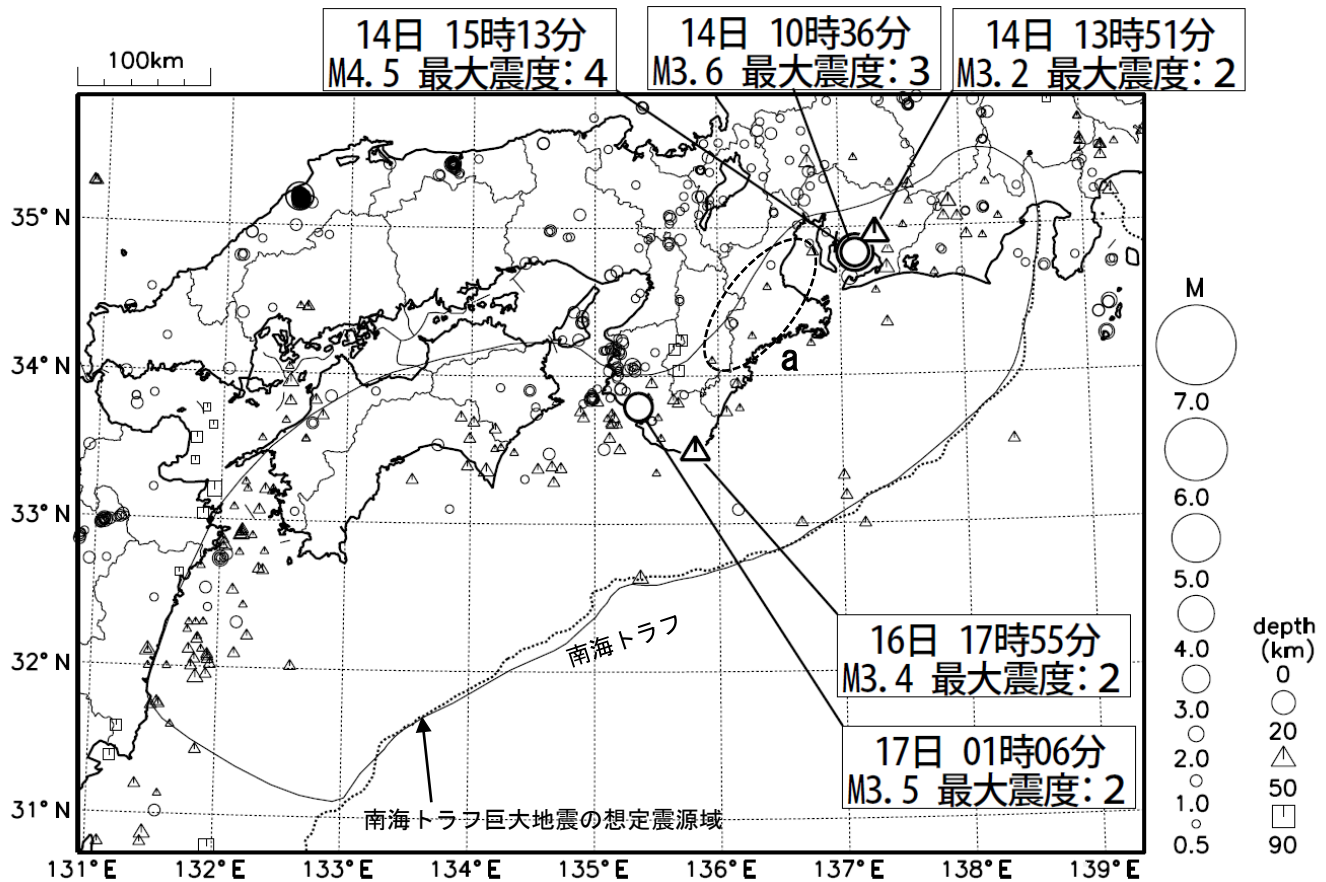


南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 16

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（平成30年4月13日～4月19日）



“南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（ $M \geq 0.5$ 、震源の深さ0～90km）。

[概況]

13日以降、三重県付近のプレート境界深部で短期的ゆっくりすべりが発生していると推定される。

14日15時13分に、愛知県西部の深さ6kmでM4.5の地震（最大震度4）が発生した。

[主な地震活動]

・14日15時13分に、愛知県西部の深さ6kmでM4.5の地震（最大震度4）が発生した。また、同日10時36分に、ほぼ同じ場所でM3.6の地震（最大震度3）が発生するなど、一時的にややまとまった活動となった。今回の活動は、地殻内で発生した。

・17日01時06分に和歌山県北部の深さ10kmでM3.5の地震（最大震度2）が発生した。この地震は、地殻内で発生した。

[主な深部低周波地震（微動）活動^{※1}と地殻変動]

・13日以降、伊勢湾から三重県（領域a）を震央とする深部低周波地震（微動）を観測している。深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、三重県と愛知県に設置されている複数のひずみ計^{※2}に変化が現れている。これらは、プレート境界深部において発生している短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

※1：上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が低い深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

※2：国立研究開発法人 産業技術総合研究所のひずみ計。